［COMMUNION］
WEB:http://www.nskk.org/tokyo/index.html
E-mail:comm.tko@nskk.org
PHONE:03-3433-0987
FAX:03-3433-8678
Diocese Office

コミュニオン

東京教区時報［特別号］

中高生キャンプ特別号
第１８号（通巻１２５３号）
2014年９月２３日
編集：広報委員会
委員長：渡辺康弘
日本聖公会東京教区
港区芝公園 3-6-18

8月18日から21日までの4日間、群馬県水上の日本バイブルホームにて2014年度東京教区夏の中高生キャンプが開催されました。中高生17名、青年スタッフ6名、引率スタッフとして太田信三聖職候補生、チャプレンとして上田亜樹子司祭、以上の総勢25名が大自然の中で共に過ごし、同じ時を分かち合いました。

今年度のキャンプテーマは「向き合う」。このテーマの下に14のプログラムが構成されました。一つのテーマについてお互いの考えや想いを話し合う「分かち合い」、「みことばの時間（聖書研究）」。大自然を感じる「ハイキング」、「キャンプファイヤー」、「天体観測」。最後には全員で準備して捧げる「聖餐式」などがありました。

このキャンプを通して自然、人間、時には自分と…その他様々なものとじっくり「向き合う」4日間になったのではないでしょうか。

テーマ「向き合う」

今年度のキャンプテーマは「向き合う」でした。多くのことを考える時期である中高生ですが、その一方で多くの課題に追われる日々の中で何かと「向き合う」という時間を持つことが難しい時期でもあります。また、普段属するコミュニティの中で他人と意見が違うことを恐れ、大多数の意見を正解としてそれに自らを合わせようとする傾向が強い時期であると私たちは感じていました。

「向き合う」という行為は私たちに新たな視点を与え、そして、その行為は答えを求めることがすべてではないと教えてくれることさえあります。

「向き合う」とはどういうことか私たちは中高生とともに分かち合い、また体感・体験したいと思いこのテーマを設定しました。

そして、このキャンプテーマをもとにすべてのプログラムに「～と向き合う」という小テーマを設定し、常に「向き合う」を意識しながら4日間を過ごしました。

1日目の前半は、「バスレク」「アイスブレイキング」などのレクリエーションが主なプログラムでした。歌や、ゲームをするうちに少しずつですが緊張がほぐれていく表情がみえました。

昼間のプログラムを終え、夕の祈りの後は夕飯の時間になります。キャンプ中の朝、夕、就寝前の祈りではスタッフ全員とチャプレンが交代で司式と勧話を担当しました。ご飯の時間には自分の食べられる量だけお皿に取るという約束を設け、神様からいただいた命を大切にいただきました。

この日の目玉プログラムは、夜の「わかちあいI」でした。6人程のグループに分かれ、スタッフが「たいせつなきみ」という絵本の読み聞かせをした後、それぞれが気になったことや感じたことを話し合いました。「この絵本の世界は学校や、自分たちの生きている世界に似ている気がする」「人からの評価って大事な時もあるけど、人によって感じ方は違うから人と比べるのはおかしいんじゃない？」たくさんの気付き、考えに触れられた時間でした。

就寝前の祈りをし、各々日記を書いて1日目は終了です。

2日目は、外で行った朝の祈りから一日を始めました。この日最初のプログラムは「ハイキング」でした。「自然と向き合う」の小テーマのもと、近くにあった奈良俣ダムまで往復2時間程度の道のりを全員で歩ききることが出来ました。昼食のBBQを楽しみ、午後のプログラムは「みことばの時間」でした。マタイによる福音書第7章1節～6節の「人を裁くな」についてそれぞれの意見を分かち合いました。丸太とおが屑について考えを巡らせたり話しあったりと、グループごとに「みことばと向き合う」ことが出来たようです。夜は「室内レクリエーション」で、自分自身の感覚と向き合うことが出来るゲームをして楽しみました。

2日目最後のプログラムは「天体観測」でした。直前まで降っていた雨が嘘のように上がり、軽いナイトハイクの後、地面に寝転がって星空を眺めました。自然を体感するプログラムが多かった一日は天候にも恵まれ、キャンプの前半を終えました。

高2　小幡　千花

「成長を実感させてくれる」これがこのキャンプの1番の魅力だと思う。自分と向き合う事でよくも悪くも自分の変化を身にしみて実感した。それはこのキャンプでは他にはない、同年代の仲間達と真剣に語り合う時間があるからだろう。お互いにあまりよく知らない人達だからこそ本心で自分を飾らず語り合える。そして人の考えを素直に受け取り、自分の知らない自分に会える気がする。私自身はこの語り合いでこのキャンプのテーマでもある「向き合う」を自分として、口に出したことで、自分の中でどうしようもなく辛かったことも少し消化された気がした。また昨年おとなしいのかなと思っていた人もすごくしっかりした意見を言っていて、人って1年でこんなに変わるんだ、私も頑張ろう、と思い刺激を受けた。普段の生活ではあまりよく実感できない「成長」を様々なところで実感できたキャンプだった。最後に、ここには書き切れないほどたくさんの楽しさをくれたこのキャンプに関わったすべての人に感謝と、また再会できることを願ってこの文を締めたいと思う。

中2　平林　瑶子

二度目の中高生キャンプでしたが、みんなと馴染めるか不安な気持ちを持って初日を迎えました。しかし、このキャンプは自分にとって安心できる大切な仲間との出会いの場となりました。みんなといると心が安らぎ、普段抱えている悩みを忘れている自分に気づきました。なぜ不安が安心できるものに変わったのか、考えてみました。

一つ目は、自然の中での生活です。空気が澄んでいて、川や風の音、鳥の声が聴こえ、夜には満天の星空が見えました。このような普段感じることのできないものを身体で感じることで、心が洗われた気がしました。

二つ目は、お互いのことを想い合って生活していたことです。わかちあいや、みことばの時間は人の話に耳を傾け、そこから自分を見つめ直したり、自由時間では相手のことを知ろうとし、自分のことを知ってもらおうとみんながしていました。

短く限られた時間だからこそ、今回のテーマの「向き合う」を実感できたのだと思います。相手を理解し、怖がらずに自分を表現するということの大切さを感じたキャンプでした。

3日目最初のプログラムは「聖餐式準備」でした。これは4日目におこなわれる聖餐式に全員で役割を担って臨むというプログラムがあり、そのための準備の時間でした。それぞれが自らの賜物と向き合い、それぞれの役割を選び、準備をしました。

続いてのプログラムは「ものづくり」で、落ちている木と事前に用意した紐を使って全員で十字架ネックレスをつくりました。木はそれぞれ探しに行ったため、出来上がったネックレスの形は様々で、世界に一つだけのオリジナルネックレスができました。

昼食を挟んでからは「わかちあいⅡ」。6人程のグループに分かれて「向き合う」とはどういうことなのかについて話し合いました。それぞれの価値観を共有し、自分の考えを深めることのできた貴重な時間でした。

夕の祈りと夕食を挟み、夜は「キャンプファイヤー」。火を囲みながらゲームをしたり、歌ったりと、キャンプ独特の時間・空間と向き合いました。キャンプファイヤーの最後には全員でキャンプの感想を言い、火を囲みながら就寝前の祈りをして3日目のプログラムは終了しました。

最終日最初のプログラムは「大掃除」でした。「施設と向き合う」という小テーマのもと、4日間キャンプに集った人々を守ってくれた施設に感謝の気持ちを込め、自らの手で掃除を行いました。

次は「メモリアルブック」でした。小テーマは「そこにいたみんなと向き合う」です。キャンプが終わってもいつでも一人ひとりのことを思い出すことができるように、それぞれがキャンプを振り返りながら全員にメッセージを書いていきました。

キャンプの最後には、皆で聖餐式を捧げました。それぞれが役割を持ち、時には工夫を凝らしながら準備をしてきました。その一人ひとりの努力、想いが結晶のように集まった印象深い聖餐式になったと思います。

その後は昼食を頂き、バスに乗り込み、キャンプ場を後にしました。バスの中では自然と「向き合う」という言葉が出てくるぐらいに、このキャンプで一人ひとりが様々なものを感じ、受け止め、考え、向き合っていたと実感することができました。

中3　牧野　悠剛

二度目のキャンプでもやはり緊張からの始まりでした。

初日、教会に着く迄に僕は「初めて会う人と上手く喋れるかな」とか「昨年同じだった人と昨年と同じ様に接する事ができるかな」等そんな不安で頭は一杯でした。　しかし、教会に着いた途端に喋りかけてくれた人、バスの中で一緒にプログラムを楽しんでくれた人、宿に着いてすぐに遊んでくれた人、周りの仲間の優しさのおかげですぐに打ち解ける事が出来ました。

僕はハイキングで、険しい山道を声を掛け合ったり歌ったりしながら歩く事で目的地に着いたときの達成感からみんなが自然と笑顔になれたのを見て、協力することって素敵だなと思い印象的でした。それらの部分も含め今回のキャンプではキャンパー一人一人の性格や思いを知り、テーマの通りにそれぞれと少しずつ「向き合う」ということができた場でした。また、僕らキャンパーを楽しませるために長い期間心を込めて準備して下さったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

この夏の出会いを大切に「向き合う」という言葉を自分の成長に活かし日々の生活を送り、また来年のキャンプも参加したいと思います！

中3　小野　朝子

私は今回初めてこのキャンプに参加しました。

何が一番楽しかったかは、一言では言えないけれど、全ての時間が意味のある時間だったと思います。

まず、バスレクやアイスブレイキングでいろいろなゲームをして緊張がほぐれ、わかち合いではいろいろな人の意見を聞き、たくさんのことを考えさせられました。そして、ハイキング、天体観測、キャンプファイヤー、屋内レクリエーションでは、自然と向き合ったり歌やゲームを楽しむことができました。他にも、ものづくり、聖餐式、清掃など、たくさんのことを体験したなかで、全てのプログラム、全ての時間に温かさを感じました。このキャンプをとおして私は、「向き合う」とはどういうことか、体で実感し、深く考えることができました。初めて会った人と行動をともにして少し緊張し、キャンプ中に向き合えなかったこともたくさんありましたが、これまであじわえなかった初めての体験ができ、また参加したいと思いました。

キャンプリーダー
山﨑健吾

スタッフとしてキャンプの準備を進める中で「中高生一人一人に大きな恵みを持って帰って欲しい。」という気持ちが大きくなっていました。その気持ちが大きくなる一方で、中高生に自分たちの思いが届くのかという不安もキャンプが近づくにつれて大きくなりました。

そのような思いを胸にキャンプを迎え、その4日間はあっという間でした。「向き合う」というテーマを設定し、中高生にじっくりと「向き合う」時をこのキャンプで持ってほしいという思いであったにも関わらず、刻々と進んでいくキャンプの時間の中で私自身が何かと「向き合う」ことができていませんでした。

キャンプが終わり4日間を振り返ってみると、私たちの思いをはるかに超えて中高生自身一人一人が何かと「向き合う」キャンプとなっていたと思います。そのような中高生の姿から私の方が恵みをもらって東京へと帰ってきたキャンプでした。

青年スタッフ感想

単に楽しいだけでなく色々なことに気付かされるキャンプでした。「向き合う」ことにとても疲れましたが、それ以上によいものを得ることができました。

小林 忠正

向き合うことで向き合うことの本質が見えてきた、そんなキャンプでした。一緒に向き合ってくれた参加者の皆、支えてくれたすべての方々に感謝します。

下条 あすか

25名が出会い、共に過ごし、「向き合う」ことでキャンプという輪が形になったと、最後の夜に火を囲んだ時に実感しました。

沼原 類

懸命に過ごす中で、気が付いたらたくさんの恵みを受けていました。このキャンプで出会えた人と向き合う機会を持てたことに感謝しています。

平野 多希

「向き合う」というテーマで行った今年のキャンプでした。中高生にとって向き合った経験の一つ、将来向き合うきっかけの一つになれば幸いです。

山口 恵奈

司祭 上田 亜樹子

課題としての難しさもある中で、中高生もスタッフも本当によく頑張って「楽しく」「意義のある」キャンプをつくりあげました。4日間で、大きく成長された姿を見て感激しています。自分のいのちの意義を認める、嫌いな自分も神さまが先に愛してくださっていることを受け入れる、自分以外のどんな人も漏れなく神さまは大切にされている、そんなことを再確認するキャンプだったのではないでしょうか。

聖職候補生
太田 信三

すべてのプログラムに「～と向き合う」というサブタイトルが付けられた、ひたすら「向き合う」3泊4日。日常から離れた環境ながら、日常のあらゆるものととことん向き合うことになる、ある意味過酷なキャンプ。その過程で表れてくる参加者の多面性と変化を目の当たりにする日々は、私たちの想像をはるかに超える神さまの働きを目の当たりにするかのような、非常にサクラメンタルな時でありました。

今年度の参加者

【中高生】

小野朝子、小幡千花、金子英志郎（立教学院諸聖徒礼拝堂）、金澤一心（神田基督教会）、北村恵里沙（神愛教会）、田中萌実（神愛教会）、小嶋元、榊原あける、榊原求（聖テモテ教会）、林大耀、牧野悠剛（聖アンデレ教会）、平林瑶子（渋谷聖ミカエル教会）、穂積香菜（三光教会）、溝井ひかり（大森聖アグネス教会）、宮﨑真理（立教学院諸聖徒礼拝堂）、本幡明子（聖救主教会）、柳澤光輝（立川聖パトリック教会）

【青年スタッフ】

キャンプリーダー山﨑健吾、小林忠正、平野多希、山口恵奈（立教学院諸聖徒礼拝堂）、下条あすか（浅草聖ヨハネ教会）、沼原類（聖アンデレ教会）

【引率スタッフ】

太田信三聖職候補生（聖アンデレ教会）

【チャプレン】

上田亜樹子司祭（立教女学院）

感謝

皆様の温かい応援の声を励みに、そして神様の御恵みの下で中高生キャンプ準備会はこの1年間準備し、無事に夏の中高生キャンプを終えることができました。ご支援、ご協力頂いた教会、聖職や信徒の方々にスタッフ一同より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度の夏の中高生キャンプについて

中高生キャンプ準備会は「青年による中高生キャンプを東京教区の夏の恒例行事にすること」「長く続けられる活動にすること」を目標に活動しております。来年度も夏の中高生キャンプを開催するためにスタッフは前年から来年度のキャンプに向けて準備を開始致します。そのために青年スタッフを募集致します。詳細につきましてはお知らせを各教会へお送りする予定ですので是非ご覧ください。また、中高生の募集につきましても後日お知らせする予定です。よろしくお願い申し上げます。